

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 12月えんだより

12月聖句：「さあ、ベツレヘムへ行こう。」

<ルカによる福音書 第2章 15節>

陽が沈むのが早まり、家に明かりが灯る夕刻になると冬の訪れを感じます。早いもので今年も12月がやってきました。子ども達は、園舎に響くクリスマスの歌や音色を耳にしながら、この時を過ごしています。クリスマスは、イエス・キリストが凡そ2000年前にこの世に生まれ、人間の元に来られた時と聖書では伝えられており、それは、私たちに「愛」を示された出来事でありました。

当時の社会の中で、戒律を守れないと、虐げられていた羊飼い達は、朝も昼も夜中も働き続けて、弱い羊の命を守り育てていました。休みの日など無い彼らは、やがて生きる希望どころか、毎日の生活に苦しむだけでなく、安息日（休日）にも働く者として、蔑まされる存在として扱われ、その心は冷え切った日々を送っていたのです。そんなある日に「救い主が誕生する」ことが告げられたのでした。その言葉を聞いて、遠く離れたイエスが生まれる町に、ただイエスに会うために発した言葉が、「さあ、ベツレヘムへ行こう。」という今月の聖句でした。「会いに行きなさい。」と命令されたわけではありません。自らが、新しい世界が開かれるかもしれない可能性を抱き、救い主イエス・キリストに出会うことによって、わずかでも幸せになる希望を信じて発した言葉なのでしょう。

私達の世界も混乱と困窮の中にいます。互いに傷つけあい、憎みあい、争いが絶えない状況にあります。パレスチナ、ガザ YMCA の一人の子どもが「私が大人になれば、人を助ける働きをする」と語ったそうです。なぜ争いが起こるのか、なぜ毎日不安と戦うのか、大人の互いのプライドが戦いを長引かせ、そして、自らが大人になれるかどうか分からない命であることの現実を知りながら、それでも生きる希望を表しています。互いに赦し合い、愛することが難しい中に生きています。

平和に見える私たちの内にも、心に愛を必要としている人がいます。前述の羊飼いたちは、その後はこれまでと同じ生活を生きていきました。以前と変わらず、認められない存在として、歩み始めたのでした。しかし、彼らは、イエスに出会い、神様の愛を知り、希望をいただいたのでした。自らを愛してください方がある。その喜びと賛美に満ちて生きていくのでした。どんな時でも愛してくれる存在、今そんな存在を求めているのかもしれませんが、今月も皆さまの内に平和がありますように祈ります。

12月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	うれしいね/わくわくするね	共に喜ぶ
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと一緒にクリスマスを感じ、絵本や讃美歌を楽しむ。 ・友だちや保育者と共に喜びを言葉や体で表す。 ・冬の訪れの中で、いろいろなことを見たり感じたりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イエスさまのご降誕を楽しみに待ち、クリスマスを祝う喜びを知る。 ・寒さを感じる季節の中、身体を動かすことに関心を持っていく。 ・一人ひとりにいただいている恵みに気づき、アドベントの生活を経験する。